



南太秦だより

令和4年度前期学校評価結果

令和4年度前期学校評価結果 臨時号
京都市立南太秦小学校
校長 上田 清乃

「南太秦小学校の教育に関するアンケート」をまとめましたのでご報告いたします。保護者の皆様には、93%の方にご回答いただきました。ご協力、ありがとうございました。

アンケート項目を『確かな学力』『豊かな心』『健やかな体』の3つに分け、今年度前期の学校生活や学習の様子について、傾向をまとめ、考察しました。児童、保護者、教職員の三者それぞれの立場からの評価であるため、差が生じている項目もありますが、子どもの姿を通して、今後の子たちへの関わりを見直す機会として結果をとらえていきたいと考えています。

確かな学力

学ぶ意欲をもち、進んで表現する子

そう思う

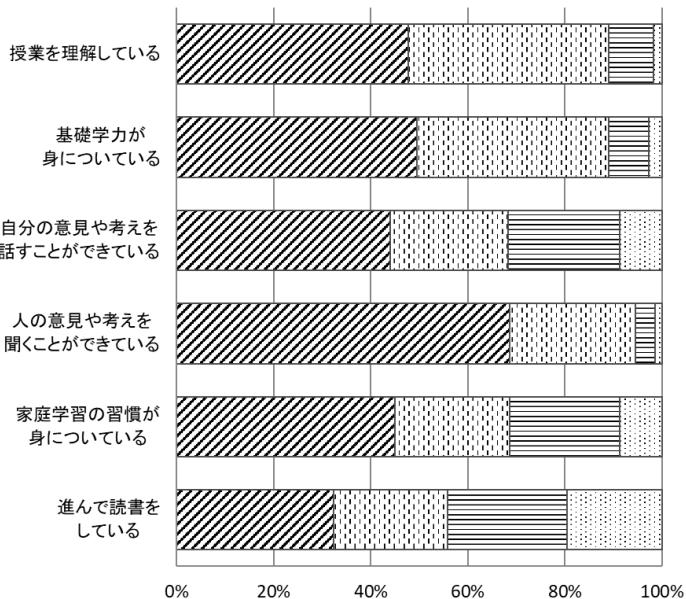
あまりそう思わない

大体そう思う

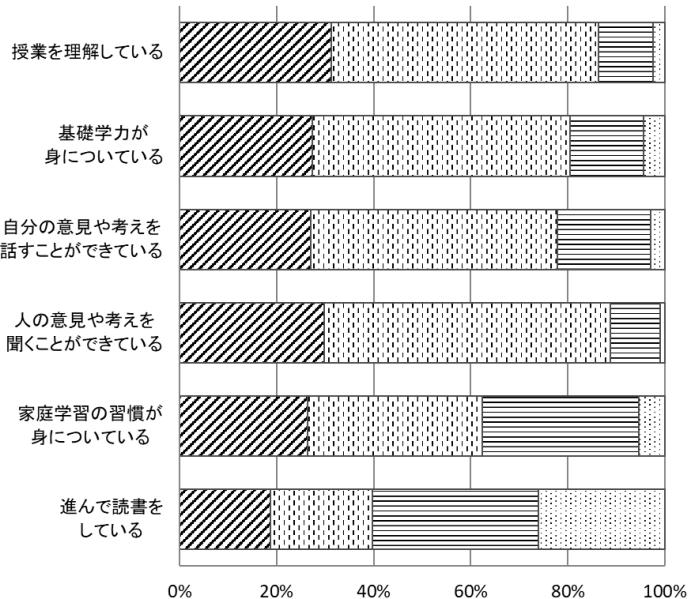
そう思わない

学力に関する6つの項目について、それぞれの割合を表しています。

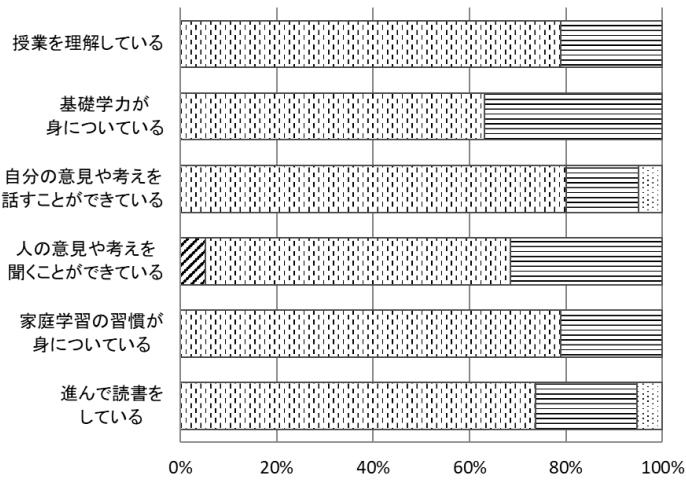
児童



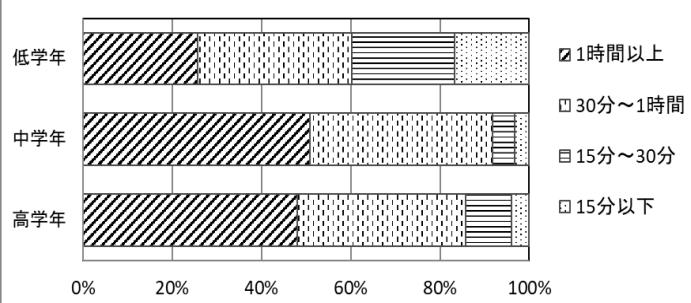
保護者



教職員



☆家庭学習の時間☆



◆家庭学習の時間の目安は15分×学年です。



【考察】「確かな学力」の定着に向けて

「学校の勉強がよく分かっている」「基礎学力が身についている」の項目で、児童の自己評価が高いのは喜ばしいことです。一方で、教職員から見ると、学習の理解・定着に課題を感じていると言えます。特に「基礎学力が身についている」の項目では、保護者の20%、教職員の40%が「あまりそう思わない、そう思わない」という結果でした。

基礎学力は、当該学年の学習だけでなく、それまでの学習の積み重ねも大きく関わってきます。漢字やひらがな・カタカナの読み書きや算数の九九・わり算など、その学年で身につけるべき力をしっかりと習得した上で次の学年へと引き継げればと思います。この評価は、教職員にとっては、自身の指導への評価でもあります。児童が「確かな学力」を身につけ、自信をもって学習にのぞめるよう、今後も学習指導を工夫・改善していきたいと考えています。

今回のアンケートでは、「自分の意見や考えを話すことができている」と「人の意見や考えを聞くことができている」という項目を増やしています。本校では、つけたい資質能力として「協働的に取り組む力」「積極的に発信する力」を挙げており、授業の中でも、交流したり話し合ったりする時間を大切に考えています。アンケート結果を見ると、児童は「話す」ことに、教職員は「聞く」ことに課題を感じているように見受けられます。コロナ禍の間に、なかなか話し合いができなかった影響もあるのかもしれません、スピーチなど人前で話す経験をしたり、グループで話し合ったりする活動も増えています。「聞く」ことについては、ただ静かに聞くだけではなく、聞きながら理解しようしたり、考えを深めようとしたりする「能動的な聞き方」を求めていいます。話し合いの中で、多様な考えを取り入れたり、互いの意見を伝え合ってより良いものを生み出したりできるように、「話す力」「聞く力」どちらも伸ばしていけたらと思います。



家庭学習や読書の習慣に目を向けると、「確かな学力」につながる部分があるようにも思います。「家庭学習の習慣が身についている」の項目では、保護者の「そう思う、大体そう思う」の割合が約60%、「読書の習慣がついている」の項目になると、約40%となっています。また、児童の割合も、どちらも約60%となっています。家庭学習は、学校で学んだことを繰り返し練習し、定着を図る大切な場となります。また、自主学習など、自分から課題を見つけて学習に取り組むことで、自分に何が必要かを考え、課題解決に向かう「自己調整力」にもつながると考えています。宿題としてやり切ることと共に、自ら学びに向かう姿が高まるように働きかけていきたいと思います。ご家庭でのご支援、ご協力、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

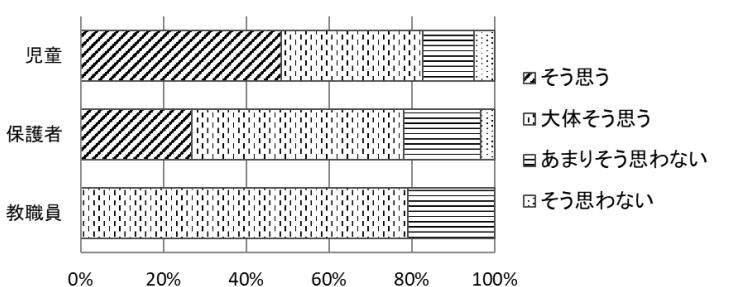
読書は読む力はもちろん、想像力を豊かにし、心を育み、様々な学びにつながります。学校では朝読書や読書週間など本に親しむ姿が見られますが、より読書の幅を広げられたらと思います。また、家庭で読書に親しむ時間が増えていけばと思いますので、ご協力をお願いいたします。



健やかな体

心と体を大切にする子

規則正しい生活を送っている



【考察】規則正しい生活がすべての基本

「そう思う、大体そう思う」を合わせて見ると、三者に大きな差はありませんが、児童と保護者の「そう思う」の割合には違いがあります。

学校で話を聞いていると、睡眠時間(寝る時刻)やゲーム、スマートフォン等の時間の長さが気にかかる児童もあります。そのことが、朝の挨拶や登校の様子にも影響を与えていているのではないかと考えられます。

勉強も運動も、まわりの人との関わりも、生活習慣が基盤となります。元気に登校できますように、日々の生活を今一度見つめ直してもらえたたらと思います。

豊かな心

多様な他者を思いやる心をもち、人やものを大切にする子

そう思う

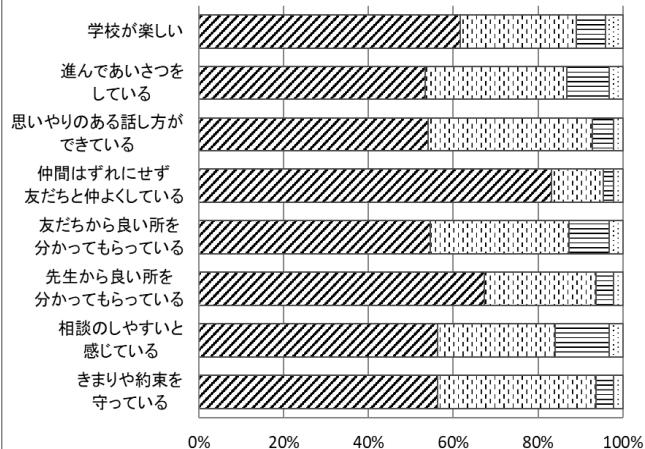
あまりそう思わない

大体そう思う

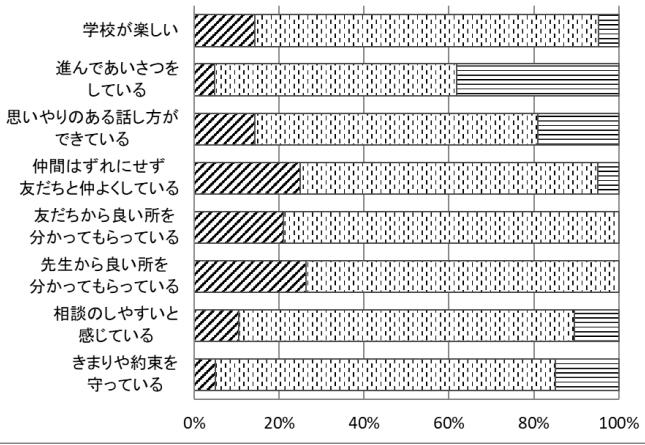
そう思わない

学校生活に関わる8つの項目について、それぞれの割合を表しています。

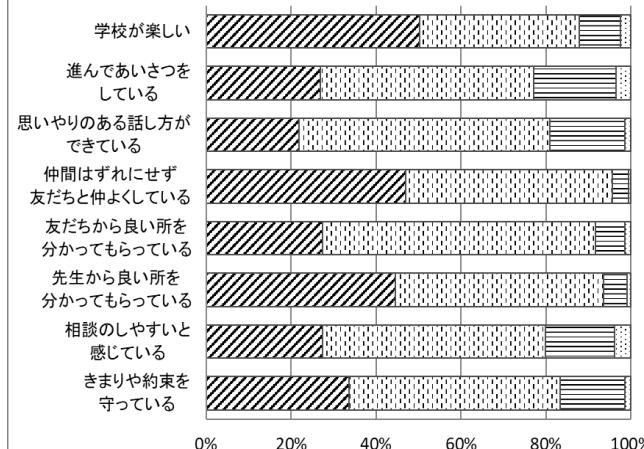
児童



教職員



保護者



【考察】より良い自分 より良い学校生活

学校生活が充実したものになるには、いろいろな要素がありますが、中でも「友達」や「先生」といったまわりの人との関係はとても重要だと思います。そういう意味で、「仲間外れにせず、仲良くしている」や「先生に良い所を分かってもらっている」の項目で、児童の「そう思う、大体そう思う」の割合が高いのはうれしいことです。ただ一方で、「思いやりのある話し方ができている」の項目や「学校が楽しい」の項目での「あまりそう思わない、そう思わない」割合が、少数とはいえ存在するということにもしっかりと目を向けていく必要があると考えています。

子ども達の学校生活を見ると、友達と仲良く協力して活動したり、困っている友達に声をかけたり、心優しい面がたくさん見られます。しかしながら、乱暴な言葉、軽はずみな言葉で、けんかになったり、友達を傷つけてしまったりすることもあります。子ども達が互いのことを思いやり、より良い交友関係を築いていくために、言葉の使い方は折に触れ、指導していきたいと思います。

また、教職員としては、いつでも相談してもらえるように、児童・保護者の声に耳を傾けるようにしたいと思います。このアンケートもその一つだと考えていますし、日々、ご家庭と連絡を密にできたらと考えていますので、ご協力をよろしくお願ひいたします。今後も、子ども達の様子に目を向け、声をかけ、児童理解・子ども達に寄り添う指導に努めていきたいと思います。

挨拶についても気にかかるところです。「進んで」というよりも「されたら返す」という児童が多いように思います。学校では、今年度も児童会中心にあいさつ運動を行っており、児童自身が動く姿もあります。そういう姿が全体に広がっていくように、今後も働きかけていきたいところです。また、「自分から」「顔を見て」「聞こえる声で」「気持ちよく」というように、相手に伝わる挨拶について具体的に示していけたらと思います。

学校生活がより良いものになるように、児童自身の「こうありたい」という自己指導能力を高めることが大切になります。日々の授業の中で、友達との関わりの中で、「自分のために」「まわりの人のために」行動する児童の姿を、教職員はしっかりと認め、支えていきたいと思います。子ども達自身の「より良い自分」、「より良い学校生活」を目指す姿が、「学校が楽しい」につながっていくと考えています。



保護者の皆様より　自由記述（一部抜粋）

- 以前より読書をすることが増えた気がします。
- 「お友達がいるから学校楽しい」と2学期の始業式の日は元気に登校していました。「お友達は仲間だ」と言っています。勉強はだんだん難しくなりますが、仲間と楽しく遊んでほしいと思います。自主勉強は毎日悩んでいますが…。
- いつも子ども達のことを考えながら、コロナの状況下でできることをして下さってありがとうございます。相談しやすいとは思っていますが、自分から話すことが難しく、この一年で「助けて」が自分から言えるようになるといいなと思います。読書やネット利用時間など、皆さんはどうのようにされているのかお聞きしたいです。親も一緒に読書をしたり、休憩したりしないとスムーズにいかないことがあります。
- 高学年になり、スマホを与えてから、使い方の約束などをしましたが、守れず、生活習慣や勉強がおざなりになっています。注意しても耳に入らず、子どもとのやり取りに苦心しております。学校では正しい生活をしっかり意識している友達のおかげで何とかやれているようです。
- 授業の内容が理解していないくても言い出せずにそのまま帰ってくるので、子どもが個人的に分からぬところを質問して教えてもらえる時間があるといいなと思います。

お家で子ども達のため、いろいろとご配慮いただいていることが分かります。まずは学校に元気に登校してもらうことが第一で、そのために学習や友達関係のことなど、学校にできることを今後も考えながら取り組んでいきたいと思います。

学年が上がるにつれて、友達同士のつながりが増えていきます。学校で、毎日努力を続けたり、新しいことにチャレンジしたり、一人では難しいことを支えるのが仲間の存在です。より良い姿を目指す仲間づくりが大切だと感じています。

日々、お子様との関係を大切に考えておられる保護者の皆様にも、学級懇談会の際など、教職員や他の保護者の方との「横のつながり」もぜひ深めていただけたらと思います。一緒にお子達のことを考えていけたらと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

学校運営協議会理事の皆様より（一部抜粋）

- 児童・保護者・教職員の各立場で、この評価をどのように受け止めるかはそれぞれ異なると思います。自分自身の評価で「何が足りていて、何が足りないのか」という様々な課題の資料として見つめ、新たな自己評価、そして自己調勢力を身につけていただければと思う。
- 言語能力については、得意・不得意があると思いますが、常日頃から家庭や学校において、しっかりとコミュニケーションを取り、能力を上げることが必要だと思います。
- 「話す力」について、自分が前に出るのを嫌がる児童も多いように思う。自分の意見を言えない子もいて、そのことが悪いことではない。その子に応じて慣れも必要で、「聞く」ことが、いつか自分の思いを話せる力につながっていくのではないか。
- 読書は、読解力や基礎学力につながるもの。お家でも本や字を読む時間を増やしていくらうと思う。のために、読書の感想を短く書く「読書マラソン」や親子読書などの取組ができるのではないか。環境が整えば、本を読む習慣につながっていくのではないだろうか。
- 困ったことや悩みがある自分を助けてくれる人、わがままな自分を優しく見つめてくれる人、また逆の立場でも友達として寄り添える人になれること。お互いの性格を理解でき、受け止められる人になってほしいと思います。
- スマホや動画の影響が言葉遣いにも見られることがある。そういう言葉を使うことで、自分の内面が引っ張られたり、自分自身に返ってきたりすることがあることを伝えたい。
- 「学校が楽しい」にも関わらず、「学校に行きにくい」と感じることも増えている。こういう時こそ、人のことを気にかけてあげられる優しさがあればと思う。
- 睡眠時間は毎日の生活リズムを刻む上で大切な要素です。あわせて、朝食もしっかりと取ることも大切です。そして、夜は家族団らんの楽しい時間をできるだけ取っていただき、一日の報告をするなど、コミュニケーションを取ってほしいと思います。
- 「スマホのルール」について、以前、元中学校の校長先生が話しておられました。「夜、家族全員がリビングテーブルの上に置く」、「時間は20時に」と家族で決めておられたとのこと。お家の方は大変かと思いますが、家庭内で「ルールを守る力」を教育することにもつながりそうです。

多数のご意見、ありがとうございました。保護者の皆様、学校運営協議会の皆様からいただいたご意見を校内でも共有し、引き続き改善を進めていきたいと思います。今後も、より一層のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。